

第  
2回

# シリーズ事業承継



税理士 三枝 寛和

シリーズ事業承継第二回は、事業承継を円滑に行わないと起こりうる、事業承継で発生するリスクとその対策また、事業承継を円滑に進め成功へ導くポイントについてご紹介させていただきます。

## 1. 事業承継で発生するリスクと対策

### 事業存続リスクと対策

①企業運営を創業経営者、現経営者の人脈、能力に依存していることが多く、それらの引継がうまくいかない場合は経営機能が低下して業績が悪化する可能性がある。

→事業承継者の早期の選定と育成

②事業承継者が古参役員や従業員の信任が得られないために、経営体制が分裂し、優秀な人材が流出する場合がある。

→事業承継計画書の策定と実行

③事業承継者が取引先や金融機関の信任が得られず、金融取引がうまく行かなくなったり、必要な資金が調達できずに資金繰りの悪化を招いたりする。

→金融機関への早期対策、種類株式の活用

### 争族リスクと対策

①事業承継者が明らかになっていないために親族間で会社の経営権争奪が起こることがある。

→遺言の活用

②遺産の多くが自社株であるために、事業承継者に財産の多くが移ってしまい親族間の財産を巡る争いが起こることがある。

→生前贈与の活用、経営者の保有資産の組換え

③親族間の争いが従業員に伝わり、従業員が動揺し会社全体の士気が落ちることがある。

→経営計画の早期策定と実行

### 納税リスクと対策

①納税資金が用意できないことがある。

→自社株対策

②資金を借金で賄うことになり、個人の長期の借金の返済に苦しむこともある。

→自社株対策に伴う資金の調達

③個人の納税資金を会社の財産を使うことによる、会社の財務悪化を招くことがある。

→個人、会社を総合的に勘案した事業承継対策

## 2. 事業承継を円滑に進めるポイント

事業承継成功へのポイントは大きく経営、法務、税務の分類に分けられます。

### 経営のポイント

- ① 事業承継の実施には現経営者のリーダーシップが不可欠。
- ② 早期着手と長期計画が必要。
- ③ 承継時期を明確化する。
- ④ 事業承継者に承継に必要な項目を示す。
- ⑤ 計画的な教育、訓練を実施する。
- ⑥ 幹部職員と事業承継者の関係を明確化する。

### 法務のポイント

- ① 現経営者は意思を事業承継者以外の親族に伝えておく。
- ② 自社株の承継を行っておく。
- ③ 遺言書の作成。
- ④ 財産権と経営権の分離をする。

### 税務のポイント

- ① 自社株の評価を定期的に行い必要な納税資金を確保しておく。
- ② 自社株移転を長期的に行う。
- ③ 将来の事業承継計画を見越して定款変更、組織変更を行っておく。